

令和3年度  
エコアクション21の運営に関する検討委員会(第1回)

議事要旨

1. 開催日時 令和3年9月7日(木) 9:00~11:00
2. 開催場所 オンライン
3. 出席者(敬称略)
  - ・委員 三好 信俊(委員長)、石井 照之、佐藤 泉、八矢 舞子、藤本 貴子、古田 清人
  - ・オブザーバー 一般財団法人持続性推進機構(エコアクション21中央事務局)  
佐藤 隆史、小池 秀子、大井 圭一
  - ・環境省 大臣官房環境経済課 波戸本 尚、菅生 直美、二宮 弘道
4. 議事次第
  1. 環境省 挨拶
  2. 委員会設置要領について
  3. 委員紹介
  4. 議事
    - 1) 中央事務局の運営に関する事項  
エコアクション21ガイドライン2017年版に基づく中央事務局の運営状況等
    - 2) エコアクション21に係る普及促進事業等の報告
    - 3) そのほか
  5. 閉会

## 5. 議事要旨

### ■議事1) について

エコアクション21（以下「EA21」という。）中央事務局より、EA21 認証・登録制度の昨年度の決算報告と今年度の事業計画などについて報告された。

#### 【主な質疑】

- 委員より、事業者が EA21 を知るきっかけや自治体向けのプログラムの開催単位について質問があった。  
オブザーバーより、事業者が EA21 を知るきっかけの多くは、自治体イニシアティブ・プログラムや関係企業グリーン化プログラムといった EA21 の普及促進プログラムであり、自治体イニシアティブ・プログラムは、県と市の合同で実施するところもあるが、市区町村単位で単独の実施が多いとの説明があった。
- 委員より、EA21 認証・登録事業者の主な業種や業種別ガイドラインのある業種の取得状況について質問があった。  
オブザーバーより、EA21 認証・登録事業者の主な業種は、建設業 35%、廃棄物処理業 20%、製造業 25%であり、食品関連事業者は 2%弱との説明があった。
- 委員より、認証・登録事業者の地域による傾向や審査員の力量向上研修会について質問があった。  
オブザーバーより、認証・登録事業者数は、地域ごとの多少の傾向はあり、都道府県別に見ると静岡県が引き続き最も多く、全体的には都市部に多い傾向となっている。また、審査員の力量向上研修会は、Web 開催に移行した結果、開催地域以外の審査員も参加でき効率的になったとの説明があった。
- 委員より、次のコメントがあった。  
各地の中小事業者から話を聞くと、カーボンニュートラルに向けて、何をどうしていいかわからない事業者が多いのが実態。そういう意味で、実施されていたセミナー等は、中小事業者にとって非常に良いきっかけになると考える。先行事例として同業他社がどうしているのかを知りたい事業者はたくさんいると思うので、しっかり周知していくことが効果的ではないか。
- 委員より、2050 年の脱炭素社会実現に向けた事業者の環境対策、環境経営促進の支援について質問があった。  
環境省から、地域金融機関との連携や地域脱炭素ロードマップで創出する先行地域の事例の横展開を考えているとの説明があった。

- 委員より、コロナ禍での審査形態とカーボンニュートラルに向けた EA21 としての取組について質問があった。

オブザーバーより、リモート審査に関する基本的考え方、実施にあたっての原則、審査実施手順等を示し、リモート形式の審査を希望する事業者に対応できるようにした。カーボンニュートラルに向けては、環境省と協力して進めていくとの説明があった。

#### ■議事 2) について

環境省 大臣官房 環境経済課より、EA21 に係る普及促進事業等について、配布資料をもとに報告された。

#### 【主な質疑】

- 委員より、EA21 の取組は大変有益であると考えており、この取組を政府の脱炭素化に向けた大きな方向性とうまく結びつけられるといいのではないかと。EA21 について、もっと幅広く知ってもらえるような取組が重要になってくるのではないかとコメントがあった。
- 委員より、EA21 の普及に際して、新規認証・登録事業者を SNS 等で紹介し、取引先等に拡散できるようにする、また、有益な法改正や環境省の補助金等の最新情報を、認証・登録事業者がいち早く入手できる仕組みなど、IT を活用して構築すべきではないかとコメントがあった。
- 委員より、地域金融機関と連携した事業での成果をうまく EA21 と連携し、つなげられるよう建て付けができるとより効果が高くなるのではないかと、EA21 の周知には、カーボンニュートラルや脱炭素という部分の意識付けを強く出すようなことが必要ではないかとコメントがあった。
- 委員より、次のコメントがあった。  
環境省の地域脱炭素ロードマップで 100 以上の先行地域を作っていくという野心的な目標を達成していくためには、自治体がしっかりと継続的に EA21 を普及していくことが必要なのではないか。  
金融機関との連携は非常に良い取組だと思う。そのために、EA21 で作成が求められる環境経営レポートを活用して、事業者がなぜそうした目標を掲げるのか、どこを目指しているのか等、定性的なストーリーを理解できると、金融機関は対話しやすくなるのではないかと。また、カーボンニュートラルや脱炭素、SDGs も活用して、環境ではない価値を地域及びお客様に対して提供していることがわかるような環境経営レポートになると非常に魅力が高まるのではないかと。

- 委員より、環境マネジメントシステムの適合性とどまらず、カーボンニュートラルや補助金の情報の伝達など、事業者に価値を提供できる活動がアドオンされると、もっと活性化するのではないかとのコメントがあった。
- 委員より、次のコメントがあった。  
EA21 は、省エネ、廃棄物削減など、個別の課題に対応するツールとして成長してきていると思う。今後は、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーなど、時流にもある程度はついていかないと、認証・登録事業者へのサービスとしても行き届かない点が出てくるのではないか。そういうところは、中央事務局の方で環境省と連携を密にいただき、今後の活動につなげていただきたい。

#### 6. その他

会議は非公開で行われた。

以上